



世界への
プレゼントになろう

週報 Rotary



所沢西ロータリークラブ

RI 第2570地区第3グループ

会長 内田 学 ・ 会長エレクト 山崎 武邦
幹事 鈴木 伴忠
クラブ管理運営委員長 萩野 陽一

例会場 〒359-1127 所沢市星の宮1-3-5 ヘルヴィザ グラン TEL 04-2923-4122
事務局 〒359-1143 所沢市宮本町2-22-25 角田ビル3F TEL 04-2926-1666
例会日 毎週火曜日 (PM12:30~13:30) FAX 04-2926-5151
E-mail nishiro@dream.ocn.ne.jp <http://www.tokorozawa-nishiro.net/>

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

1. 点鐘・・・会長 2. 斉唱・・・ロータリーソング 3. 来賓紹介 4. 会長、幹事報告 5. 委員会報告

第 1411 回例会 2015・9・29

卓 話	例会当番	記念祝福
9/29 「高齢期を如何に心豊かに生きるか」 野村 邦武様	肥沼正之助	
10/6 「健康寿命を伸ばす」 彩のクリニック CEO 駒崎 敏郎様	小久保 昇	

■出席報告	
月 日	9/15
会員数	34
出席者	30
出席率	88.2%
前回修正	—

会長の時間 内田 学

先週のがバナ公式訪問お疲れさまでした。
健康のため、会長の時間のため、散歩で見つけました。

目黒駅前が品川区にある都市伝説、1885年明治18年、品川駅から赤羽までの鉄道をひくにあたり、始め目黒川沿いを通り、目黒不動の近くに駅を作る予定でした。しかし、近隣住民の反対で、権の助坂の上に押し上げられ、現在の場所になったそうです。

目黒駅追い上げ事件、として語り継がれているそうです。

1885年明治18年、当時の機関車の性能からすると、成るべく高低差を無くす為、目黒付近の切り通しにした。こちらの方が説得力があります。

今では湘南新宿ラインが、山手線より大分低い所を走っています。本日の話を終ります。

幹事報告 鈴木 伴忠

- ♥高柳がバナ様より絵手紙を頂きました。
- ♥ロータリー財団 遺贈友の会：新規/追加誓約について

- ♥ハライトよねやま 186号
- ♥地区青少年奉仕部門セミナー参加のお願い
- ♥第2570地区 奉仕部門合同セミナー参加御礼
- ♥RIJO-FAQ 配信履歴（～2015年8月末）
- ♥第3G 会長幹事会の費用の納入について
- ♥バギオだより 2015年9月号
- ♥「ロータリーの友」英語版 2015-2016年度版
- ♥例会変更・・・飯能 RC
- ♥週報・・・狭山中央 RC、所沢 RC、新所沢 RC

ニコニコボックス 小久保 昇

内田 学 林田様 本日は宜しくお願ひします。
先週のがバナ訪問の時はお疲れ様でした。

鈴木 伴忠 林田先生 本日の卓話よろしくお願ひします。

本橋 正夫 本日の講師 林田様よろしくお願ひ致します。大河原先生 本日はようこそお出で下さいました。有難うございます。

山崎 武邦 前回合同 5 クラブの例会に欠席 すみませんでした。

吉田 孝之 西武ドームに応援に来ていただいて有難うございました。来年も頑張りますから宜しくお願いします。協力金頂いて助かりました。大事に使わせて頂きます。

ゴルフ担当委員長

山田 富男

西クラブの秋季親睦ゴルフ大会を行います。場所は飯能グリーンカントリークラブです。プレー費はメンバーと同じ金額です。奮ってご参加下さいます様お願い申し上げます。

会員の皆様へ

鈴木 真澄

今晚(9/15) 5クラブ前会長 幹事と共にジギャン・クマル・タパさんが所沢にこられますので懇親会を兼ねて義捐金を贈呈します。下記の名前で感謝状を頂きたいと思います。

所沢ロータークラブ	会長	内田 勉
新所沢ロータークラブ	会長	長沢 友雄
所沢東ロータークラブ	会長	肥沼 一彦
所沢中央ロータークラブ	会長	瀧島 正男
所沢西ロータークラブ	会長	鈴木 真澄
宇部ロータークラブ	会長	西村 正彦
(株) AGS	会長	小川 修一
(株) 日東テクノブレン	社長	鈴木 立(たつる)

* ハイライトよねやま 186 号にタパさんご夫婦のスピーチが掲載されています。是非ご覧ください。

GETS で学友夫妻がユーモアあふれるスピーチ

ガバナーエレクト研修セミナー (GETS) が9月1日～2日、都内で開催され、2日午後のセッション「ロータリー米山記念奨学会プログラム」において、小沢一彦理事長と岩邊俊久事務局長が米山記念奨学事業の現況報告を行いました。つづいて「ロータリー学友からのメッセージ」のセッションでは、ネパール出身で第 2590 地区米山学友会会長のエソ



ダ・バスネットさん(2011-2012/横浜戸塚 RC)と、そのご主人でネパール政府公式通訳者として活躍中のジギャン・クマル・タパさん(2008-09/横浜たま RC)がそれぞれスピーチを行いました。夫婦そろって話上手のお二人は、時折、会場の笑いを誘いながら、「ロータリーファミリーの一員になって、国に対する偏見が無くなり、社会奉仕に目覚めた」「民間交流の大切さに気づいた」と、ロータリーとの出会いで得たことを振り返りました。その思いを実践するように、4月25日のネパール大地震発生以降、夫妻で率先して現地への支援活動を続けています。そんなお二人に会場の研修リーダーやガバナーエレクトご夫妻の皆さんから、盛大な温かな拍手が送られました。

御礼

吉田 孝之

9月5日(土) 第一試合にも関わらず早朝より応援に来て頂きまして心より感謝申し上げます。

又、多数の協力金を頂きまして助かっています。

チームの為に使わせて頂きます。延長戦で負けたので悔しく思いました。来年に向けて頑張りますので応援していただければ有り難いです。よろしくお願ひします。



卓話 <国際報道の現場>
元読売新聞編集委員 林田 裕章様



バンコク北方にロブリーという町がある。町の中央を単線の鉄路が走っていて、夜が明けると、じきぞばのヒンズー寺院から優に千匹？を超える牝の群れが鉄道を横断して市場へやってくる。町の人たちがくれるバナナやヨーグルトにありつくためだ。市場近くの大きな神社は牝を祀っていて、鳥居のわきの狛犬も「狛猿」だ。

25年ほども前のこと、子宝に恵まれない一族があった。何とか赤ん坊を授かるうと何度も件の神社にお参りした。すると霊験あらかた、新妻は身ごもって出産した。家族一同は赤子を見て腰を抜かした。その赤子の目はまん丸で、両目の間隔が異常に近い。牝の子にしか見えなかったのだ。無論、よくよく検分すると、人間ではある。しかし限りなく牝に近い形状だった。

この話は、筆者が読売新聞に書いた記事の骨子だが、どうやってこの話を仕入れたかという、すべて現地の助手の力に拠っている。何しろ筆者はロブリーという町の存在さえ知らなかったし、もとよりタイ語もできない。「政治や外交や経済だけの話だけじゃなくて、もっと読者の心が和むような話はないか」とバンコク支局の助手をせっついたらロブリーの話が出てきた。それではと助手と運転手と3人で車を飛ばし、現地のサル愛護協会の人に来て話を聞いていたら、サルそっくりさんの話が出てきたというわけだ。

海外特派員という何だかカッコいいけれども、仕事のかなりの部分は現地で雇用する助手の世話になる。大新聞社とはいえ、海外の取材網は手薄である。タイの場合はバンコク支局＝アジア総局という位置づけだが、それでも日本人の記者は筆者が駐

在したところでわずか4人(今は2人になっただけ)。タイには英字紙が二つあるが、主要な新聞はもちろんタイ語だから、我々は読むことさえできない。しかも守備範囲はタイだけではない。ミャンマー、カンボジア、ラオス、ベトナム、ネパール、ブータンの6か国に及ぶ。



勢い助手の力が物を言う。ベトナムにいたときは公務員の平均給料が5000円という時代に4万円の月給を払ってワイ大学を出た超優秀な青年を助手に雇ったし、シンガポールに駐在した時は、マレーシアの政治情勢が不安定だったので、ベルナマ通信という同国国営通信社の幹部にすり寄って、けっこう面白い材料を仕入れることができた。通算9年近く東南アジアに駐在したが、純粋に自力で取材したことというのは、中国が南シナ海で油田探査を始めた(1995年)、印パキ戦争の最前線(1999年)、ベトナム首相の訪米決まる(2005年?)ぐらいのものだろうか。

今週の担当 石井 實

